

11月13日（金）

おはようございます。

日立製作所に、川村隆という伝説の経営者がいます。現在は相談役だそうです。日立の社長や会長を歴任された方で、日立のしんどうい経営をV字回復させた経営者です。大阪であれば、シャープがいましんどうい状態です。サンヨーもだめになってしまいましたが、それと同じような経営状態を回復させたのです。この方が日系ビジネスに文章を書いていた。グローバル人材とはどういうものかということについて書いてあって面白いと思いました。

どんなことかというと、ヨーロッパの会社に100億円まけもらいたくて交渉に行ったという話です。相手の会社の名前は書いていませんでしたが、きっと大きな会社なのだと思います。トップセールスしなくてはならないので社長自ら足を運んだのです。

話の用件は、要するに100億円まけてもらいたいということ。ところが交渉がはじまると向こうの社長は、川村社長に、日本には禅宗というのがあるでしょう。禅について日本人は、造詣が深いと聞いている。禅ではよく「無」と言い、その無の境地を大切にするといいけれども、これは虚無感を感じて、何もたくないし、そして何もしないということにつながらないのか。また、生活のなかに起きる虚無感というのと、禅の「無」、あるいは「空と無」はどこが違っているのか。そして、生活のなかに「無」を生かすというのをあなたはどのように考えているのかと聞かれた。

自分は100億円まけてもらうために交渉にいったのに、相手は冒頭でいきなりそういう質問を私にした。それで、川村さんは「おったまげた」。しかし何とか答えたそうです。

しかし、なぜそんなことを聞いたのか。これから長いつきあいになるか、ならないかはわからないけれども、要するに、会ったはじめに自分の人間力と教養を試してきたということだ。日立の社長の人間力はどんなものなのかを聞かしてくれという話だと自分は受け取った。そこで、これからのグローバル人材というのは、やはりこういう教養人でなくてはならないとおっしゃっていました。

なるほどそのとおりだなと私も思います。英語が上手にしゃべれることが、グローバル人材だとしたら、アメリカ人は全員グローバル人材ということになります。そんなわけではないよね。グローバル人材というのは、やはり教養人であるということ。自分の国のことをきちんと語れなくてはいけない。英語はしゃべれるけれども、日本文化のことはさっぱり知らないし、軸になるようなしっかりした考えもないというのでは通用しない。

『国家の品格』を書いた藤原正彦という、お茶の水大学の教授がケンブリッジ大学へ留学したときに、ケンブリッジの先生に、最初に聞かれたのは、

夏目漱石の作品『こころ』のなかにある先生の死と、三島由紀夫の死に、共通性があると思わないかということだったという。要するにここでも、相手の教養をいきなり聞いているわけです。それもよそのことではなく、日本のことを聞いているのです。川村さんの場合は、そういう問いにきちんと答えられてはじめて対等の人間として交渉の場に立つことができたということなのです。

いつも言っていますが、21世紀は、話し合いの時代です。先日、朴大統領と安倍さんも、いろいろあるが、話さなくてはいけないということで、話し合いの場につきました。話し合いの中身は、最後まで平行線だったという。それでも、話し合いのテーブルにつくことが大切なのだと思います。また、オバマ大統領のところへ、習近平さんが行ったりもしています。また、南シナ海のところで、アメリカのイージス艦が通ったら、すぐにアメリカ軍の海軍の大將が中国の大將と会ったという。話し合いは完全に平行線だったけれども、やはり大事なことは、話し合いをすることなのです。

ドラマ法王がおっしゃっていたように、21世紀は話し合い時代です。話し合いのできるグローバル人材になろうと思うのなら、やはり教養を身につけておかないといけません。しっかりした教養と自分の人間力、つまり、自分はこれだけの人間だという人間力をしっかり積み重ねておく必要があります。いろいろなことにチャレンジすることも大切です。また、たくさん本を読み、知識をもっておくことも必要なのです。

最近、電車に乗っていて思うことがあります。昔は電車の中でよく本を読んでいた。最近はみなスマホをいじっていて、本を読んでいるのは、お年寄りくらいです。そんな状態で教養は身につかないでしょう。実に嘆かわしいことだと思っているのです。清風は、スマホ持ち込みを禁止していますが、諸君には電車の中で、英単語を覚えてもらいたし、また本を読んでもらいたいと思っているのです。教養をつていくには、まずしっかり本を読むことです。新たなことにチャレンジすることも大切です。それを通して、自分の心の幅を広げ、可能性を高めていてもらいたいのです。これからのグローバル人材はそうでなくてだめでしょう。

前にも言いましたが、リーダーとして絶対に必要な条件というのは、正しい倫理観とぶれない軸です。それを可能にするのが、幅広い教養とそして自分の人間力です。清風で行っている教育の基本は間違っていないと思います。諸君はそういうことをよくよく自覚して生活して下さい。これから諸君には、世界で大活躍してもらわないといけませんから。世界の経済界や科学界でどうとやれるように、しっかり人間力をつけてもらいたいと思います。

今朝の話はこれで終わります。

( 学校長 )